Press Letter
MAGIC FOR ME, FOR JAPAN♪
雪マジ

RECRUIT
株式会社リクルート

2026 年 11 月 5 日

# 『雪マジ』2026 年度、全国 130 施設でスタート
# 15 周年調査で 1 学年当たり約 8 万人の新規需要創出を推計
## 雪マジ需要創出層の約 8 割が 30 代でもスノーレジャーを実施

株式会社リクルート（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：牛田 圭一、以下リクルート）の旅行事業が手掛ける、若年層の旅行需要創出プロジェクト『マジ部』は、19～22 歳を対象にリフト券が無料になるサービス『雪マジ』を、2026 年 11 月 5 日（木）より全国 130 のスキー場で実施します。
また、15 周年の節目に際し、スノーエリアの需要創出を目指し実施してきた本サービスの効果検証調査を実施しました。調査では、30～34 歳のうち、『雪マジ』のようなサービスがなければスキー・スノーボードに行かなかったと思う人（雪マジ需要創出層）が 6.2%存在し、人口に換算すると 1 学年当たり約 8 万人の新規需要創出を後押ししたと推計されました。さらに、雪マジ需要創出層の 80.4%が、直近 3 年間にスキー・スノーボードを実施していることが分かりました。若年期の参加機会が、その後のスノーレジャーの継続につながっている可能性が示されました。




### 2026 年度は全国 130 施設でスタート

2026 年度の『雪マジ』は、北海道から九州まで全国 130 施設でスタートします。今年度は、札幌藻岩山スキー場、スノーパーク イエティ、くじゅうスキー場の 3 施設が新たに参画するほか、4 施設が受け入れを再開し、計 7 施設がラインアップに加わります。（※全施設の一覧はレター後半に掲載）

2026 年度 新規参画・受け入れ再開施設（2026 年 11 月 5 日時点）

| 所在地 | | 施設名 |
|---|---|---|
| 北海道 | 新 | 札幌藻岩山スキー場 |
| 静岡県 | 新 | スノーパーク イエティ |
| 大分県 | 新 | くじゅうスキー場 |

| 所在地 | | 施設名 |
|---|---|---|
| 栃木県 | 再 | ハンターマウンテン塩原 |
| 長野県 | 再 | 車山高原スカイパークスキー場 |
| 新潟県 | 再 | 休暇村妙高ルンルンスキー場 |
| 新潟県 | 再 | ぶどうスノーリゾート |

**本件に関する お問い合わせ先**
https://www.recruit.co.jp/support/form/

## 『雪マジ』2026 年度概要

| | |
|---|---|
| 実施期間 | 2026 年 11 月 5 日（木）～シーズン終了まで |
| 対象 | 2026 年度に 19～22 歳を迎える方（2004 年 4 月 2 日～2008 年 4 月 1 日生まれ） |
| 利用方法 | Web 版 『マジ部』で発行されるクーポンと身分証明書を窓口で提示し、無料または割引リフト券等に引き換え |
| クーポン内容 | 1 施設につき、19～22 歳の間に 2 回までリフト券が無料。その後は割引で利用可。 |
| 利用条件 | クーポンの利用には『じゃらん net』および『マジ部』の会員登録が必要です。その他の条件はマジ部 Web サイト をご確認ください。 |
| 特設サイト | https://majibu.jp/pickup/yukimaji/index.html |
| 参画施設 | 全国 130 施設（2026 年 11 月 5 日時点） |

## 若者が雪山と出会うきっかけをつくり続けて 15 年

『雪マジ』は、若年層の雪山体験促進とスノーリゾート需要の創出を目的として、2011 年 11 月にスタートしました。当初は「19 歳ならリフト券が無料になる」『雪マジ！19』として、全国 89 カ所のスキー場とともに開始。その後、参画施設やサービスを拡げ、2024 年度には対象を従来の 19 歳から 19～22 歳へ拡大しました。15 年間、全国のスキー場と連携し、費用面のハードルを下げることで、若者が雪山へ出かける最初の一歩を後押ししてきました。15 周年を迎えた今年度も、若い世代と雪山の新たな出会いをつくり、スノー文化を次の世代へつないでいくことを目指しています。

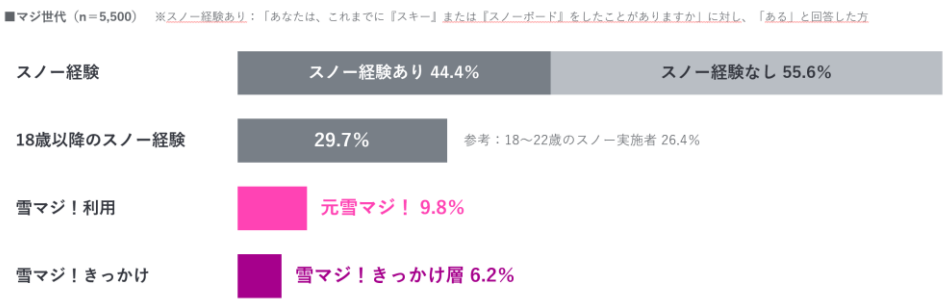
## 15 周年調査で見えた、若年層の需要創出とその後のスノーレジャー

15 周年を機に、かつて『雪マジ』の対象世代だった 30～34 歳のスキー・スノーボード経験者を対象に、現在のスノーレジャーの実施状況に関する調査を実施しました。調査では、18～20 歳の頃に「雪マジのようなサービスがなければ、スキー・スノーボードに行かなかったと思う」と回答した人を「雪マジ需要創出層」、『雪マジ』を利用したものの、サービスの有無にかかわらずスキー・スノーボードに行っていたと思うと回答した人を「雪マジ利用層」、『雪マジ』を利用していない人を「未利用層」と定義し、『雪マジ』が参加のきっかけとなった人と、そうでない人との違いを確認しました。

調査結果① 1 学年当たり約 8 万人（推計）の新規需要創出を後押し

30～34 歳のうち、18 歳以降にスキー・スノーボードを経験した人の割合は 29.7％でした。また、30～34 歳全体の 6.2％が、18～20 歳の頃に「雪マジのようなサービスがなければ、スキー・スノーボードへ行かなかったと思う」と回答した「雪マジ需要創出層」でした。30～34 歳の人口約 646 万人（出典：総務省統計局「人口推計」2026 年 4 月 1 日時点）に当てはめると約 40 万人、1 学年当たりでは約 8 万人と推計されます。

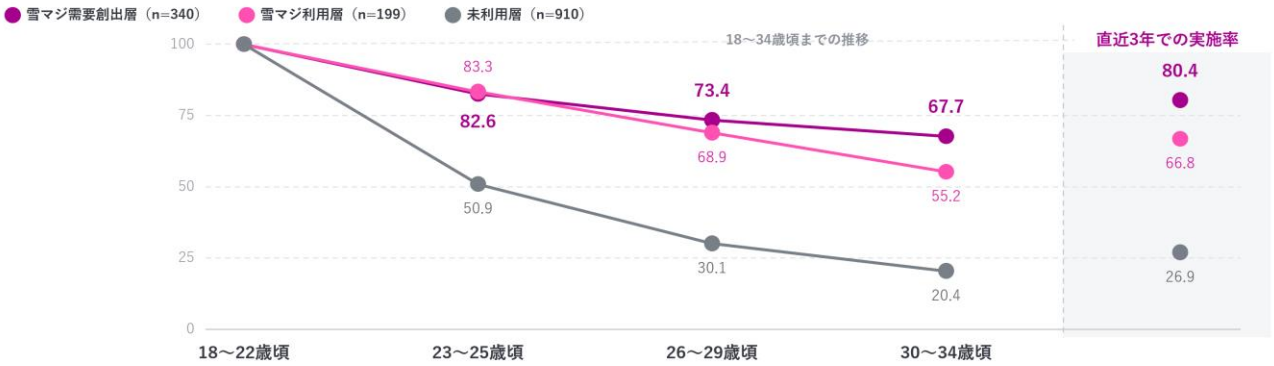
18 歳以降のスキー・スノーボード経験率を世代間で比較すると、『雪マジ』開始前に 19 歳だった 35～39 歳の 32.2％に対し、30～34 歳は 29.7％で、2.5 ポイント減少していました。30～34 歳の経験率 29.7％から雪マジ需要創出層の 6.2％を差し引くと、23.5％となります。この結果から、若年層のスノー参加が減少するなかで、『雪マジ』も世代間の減少幅縮小に一定寄与した可能性があると言えそうです。



調査結果② 雪マジ需要創出層では、30 代でもスノーレジャーを続ける人の割合が高い

雪マジ需要創出層の直近 3 年間のスキー・スノーボード実施率は 80.4%でした。雪マジ利用層は 66.8%、未利用層は 26.9%で、雪マジ需要創出層は比較対象のセグメントより高い実施率となっています。また、18～22 歳頃を 100 とした、その後の継続実施率を見ると、雪マジ需要創出層と雪マジ利用層は、未利用層と比べて高い水準を維持しています。

■マジ世代（30～34歳）のスキー・スノーボードの継続実施率　※18～22歳頃の実施率を100とした割合／%（18歳～22歳のスノー実施者ベース）




調査結果③ 雪マジ需要創出層は旅行支出額も比較対象より高い

雪マジ需要創出層の直近のスノー旅行 1 回当たりの支出額は 68,828 円で、雪マジ利用層の 65,957 円、未利用層の 39,605 円を上回りました。また、1 人当たり（※1）の直近 3 年間のスノー旅行支出額は 379,190 円で、未利用層の 163,003 円の約 2.3 倍となりました。支出には、宿泊費、リフト・レンタル・レッスンなどのスノーレジャー実施費、スキー場施設内や周辺地域での飲食・買い物・観光などが含まれます。

雪マジ需要創出層の楽しみ方は一様ではなく、近場のスキー場へ日帰りで通う人も含まれます。その一方で、宿泊を伴う旅行、公共交通機関などを利用した遠方への旅行、家族との旅行をする人の割合が比較対象より高く、こうした旅行行動も支出額が高い背景の一つと考えられます。

■30～34歳世代の調査結果より（継続率・旅行形態・移動手段・同行者・旅行支出額／3年以内スノー実施者ほか）

| | 雪マジ需要創出層 | 未利用層 |
|---|---|---|
| 継続率（30～34歳頃） | 67.7% 未利用層の約3.3倍 | 20.4% |
| 旅行形態（2泊以上） | 42.3% 宿泊あり83.3% | 15.0% 日帰り51.8% |
| 移動手段 | 新幹線・特急列車41.8%、飛行機26.8% | 自家用車59.5%、飛行機7.1% |
| 同行者（自分の子供） | 25.4% 家族旅行も多い | 14.1% |
| 1回当たりの旅行支出額 | 68,828円 未利用層の約1.7倍 | 39,605円 |

【調査結果のまとめ】

30〜34 歳のうち、18 歳以降のスキー・スノーボード経験者は約 192 万人と推計されます。このうち雪マジ需要創出層は約 40 万人で、経験者全体の約 20%に当たります。一方、雪マジ需要創出層は直近 3 年間の実施率が 80.4%と高く、直近 3 年間にスキー・スノーボードを実施した 30〜34 歳約 87 万人のうち、36.9%を占めるという推計になりました。

さらに、雪マジ需要創出層は 1 人当たり（※1）のスノー旅行支出額も高く、直近 3 年間の実施者数約 32 万人と掛け合わせると、同層による直近 3 年間の旅行支出額は約 1217 億円、1 年当たりでは約 406 億円に相当すると推計されます。これは、『雪マジ』がスノーレジャー参加のきっかけとなった層による、旅行支出額の規模を示す推計です。（※2）

（※1）自分が支払った金額をもとに算出（同行者分も支払った場合は同行者金額も含む）

（※2）旅行支出額は、雪マジ需要創出層の直近 3 年間の実施者数に、同層の 1 人当たりの直近 3 年間の旅行支出額を掛け合わせて推計。年間換算値は、3 年間の推計額を 3 で除して算出しています。推計には丸め前の数値を使用しているため、掲載数値による計算結果とは一致しない場合があります。

【考察】若者の足を雪山へ向けた「ムード」の力

本調査結果を踏まえ、私たちは『雪マジ』が果たしてきた役割を次のように捉えています。雪マジ需要創出層は、年間の国内旅行回数が多く、就業状況や家族構成などの属性にも違いが見られました。現在の継続率や旅行支出額の高さには、もともと行動力があり、旅行やレジャーに積極的な人が多く含まれていることも影響していると考えられます。そのため、現在の行動を全て『雪マジ』の直接的な効果と断定することはできません。

一方、雪マジ需要創出層は、18〜20 歳当時に「雪マジのようなサービスがなければ、スキー・スノーボードへ行かなかった」と回答した人たちです。もともとアクティブであっても、スノーレジャーを始めるきっかけがなければ、その行動力は別のレジャーへ向かっていた可能性があります。

その若者たちの足を雪山へ向けたのは、年齢を限定した「今しかできない特別な体験」と、無料という仕掛けが生み出した、お祭りのような熱狂だったのではないかと考えています。日本各地のスキー場が一致団結して若者の需要創出に取り組み、「大学生になったら雪山へ行く」というムードをつくったこと。それが、15 年間にわたり『雪マジ』が生み出してきた価値だと考えています。

調査概要

| | |
|---|---|
| 調査方法 | インターネットアンケート調査（株式会社マーケティングアプリケーションズ「MApps Panel」登録パネル） |
| 調査期間 | 2026 年 6 月 18 日〜6 月 22 日 |
| SC 調査対象 | 30〜39 歳の社会人男女 |
| SC 調査回収数 | マジ世代（30〜34 歳）5,415 名、上世代（35〜39 歳）900 名 |
| 本調査対象 | マジ世代のうち、18 歳以降のスキー・スノーボード実施者 |
| 本調査回収数 | 1,605 名（ウエイトバック後の集計数 1,635 名） |
| 雪マジ需要創出層の定義 | 18〜20 歳のときに「雪マジのようなサービスがなければスキー・スノーボードに行かなかったと思う」と回答した層 |

※推計値は、調査結果と総務省統計局「人口推計」（2026 年 4 月 1 日時点）を基に算出しています。

※構成比は小数点以下の処理により、合計が 100%にならない場合があります。

## 2026 年度『雪マジ』参画施設一覧　（2026 年 11 月 5 日時点／全 130 施設　施設は今後も増加予定）

| | |
|---|---|
| 北海道 | 今金町ピリカスキー場 |
| 北海道 | オロフレスキー場 |
| 北海道 | 釧路市国設阿寒湖畔スキー場【UTARA】 |
| 北海道 | 札幌藻岩山スキー場 |
| 北海道 | スノークルーズオーンズ |
| 北海道 | 日高国際スキー場 |
| 北海道 | 富良野スキー場 |
| 北海道 | 星野リゾート　トマム スキー場 |
| 北海道 | マウントレースイスキー場 |
| 北海道 | リブマックスリゾート函館　グリーンピア大沼スキー場 |
| 青森県 | 七戸町営スキー場 |
| 青森県 | 八甲田国際スキー場 |
| 岩手県 | 網張温泉スキー場 |
| 岩手県 | 奥中山高原スキー場 |
| 岩手県 | 夏油高原スキー場 |
| 岩手県 | 雫石スキー場 |
| 岩手県 | 花巻市鉛温泉スキー場 |
| 宮城県 | 泉ヶ岳スキー場 |
| 宮城県 | みやぎ蔵王七ヶ宿スキー場 |
| 秋田県 | 阿仁スキー場 |
| 山形県 | Asahi 自然観スノーパーク |
| 山形県 | 櫛引たらのきだいスキー場 |
| 山形県 | グリーンバレー神室・神室スキー場 |
| 山形県 | 羽黒山スキー場 |
| 山形県 | 湯殿山スキー場 |
| 福島県 | 会津高原だいくらスキー場 |
| 福島県 | 会津高原南郷スキー場 |
| 福島県 | 猪苗代スキー場 |
| 福島県 | 北日光・高畑スキー場 |
| 福島県 | グランデコ スノー リゾート |
| 福島県 | 裏磐梯スキー場 |
| 福島県 | 只見スキー場 |
| 福島県 | 沼尻スキー場 |
| 福島県 | フェアリーランドかねやまスキー場 |
| 福島県 | 星野リゾート　ネコマ マウンテン |
| 福島県 | リステルスキーファンタジア |
| 栃木県 | 日光湯元温泉スキー場 |
| 栃木県 | ハンターマウンテン塩原 |
| 群馬県 | 草津温泉スキー場 |
| 群馬県 | たんばらスキーパーク |
| 群馬県 | ノルンみなかみスキー場 |
| 群馬県 | パルコール嬬恋リゾート |
| 群馬県 | Mt.T by 星野リゾート |
| 群馬県 | 水上高原　奥利根温泉　藤原スキー場 |

| | |
|---|---|
| 山梨県 | カムイみさかスキー場 |
| 山梨県 | ふじてんスノーリゾート |
| 長野県 | 池の平スノーパーク |
| 長野県 | 御嶽スキー場 |
| 長野県 | 軽井沢プリンスホテルスキー場 |
| 長野県 | 木曽福島スキー場 |
| 長野県 | 車山高原スカイパークスキー場 |
| 長野県 | さかえ倶楽部スキー場 |
| 長野県 | The きじまスノーパーク |
| 長野県 | 爺ガ岳スキー場 |
| 長野県 | 志賀高原マウンテンリゾート |
| 長野県 | 治部坂高原スキー場 |
| 長野県 | シャトレーゼスキーバレー小海 |
| 長野県 | シャトレーゼスキーバレー野辺山 |
| 長野県 | 白樺高原国際スキー場 |
| 長野県 | しらかば 2in1 スキー場 |
| 長野県 | 信州松本　野麦峠スキー場 |
| 長野県 | スノーリゾート ロマンスの神様 |
| 長野県 | 高峰マウンテンパーク |
| 長野県 | 白馬コルチナスキー場 |
| 長野県 | 白馬乗鞍温泉スキー場 |
| 長野県 | プランシュたかやまスキーリゾート |
| 長野県 | ヘブンスそのはら Snow World |
| 長野県 | 八千穂高原スキー場 |
| 新潟県 | 池の平温泉アルペンブリックスキー場 |
| 新潟県 | 糸魚川シーサイドバレースキー場 |
| 新潟県 | 奥只見丸山スキー場 |
| 新潟県 | かぐらスキー場 |
| 新潟県 | 休暇村妙高ルンルンスキー場 |
| 新潟県 | キュービットバレイ |
| 新潟県 | 小出スキー場 |
| 新潟県 | シャトー塩沢スキー場 |
| 新潟県 | シャルマン火打スキー場 |
| 新潟県 | 須原スキー場 |
| 新潟県 | 胎内スキー場 |
| 新潟県 | 苗場スキー場 |
| 新潟県 | ニノックススノーパーク |
| 新潟県 | ニュー・グリーンピア津南スキー場 |
| 新潟県 | 八海山麓スキー場 |
| 新潟県 | ぶどうスノーリゾート |
| 新潟県 | 舞子スノーリゾート |
| 新潟県 | 松之山温泉スキー場 |
| 新潟県 | ムイカスノーリゾート |

| | |
|---|---|
| 新潟県 | 六日町八海山スキー場 |
| 新潟県 | 湯沢中里スノーリゾート |
| 富山県 | あわすのスキー場 |
| 富山県 | 宇奈月温泉スキー場 |
| 富山県 | たいらスキー場 |
| 富山県 | タカンボースキー場 |
| 富山県 | 立山山麓スキー場 |
| 石川県 | 七尾コロサスキー場 |
| 福井県 | 福井和泉スキー場 |
| 静岡県 | スノーパーク イエティ |
| 岐阜県 | ウイングヒルズ白鳥リゾート |
| 岐阜県 | 郡上ヴァカンス村スキー場 |
| 岐阜県 | スノーウェーブパーク白鳥高原 |
| 岐阜県 | ダイナランド |
| 岐阜県 | 高鷲スノーパーク |
| 岐阜県 | 乗鞍高原　飛騨高山スキー場 |
| 岐阜県 | ひだ流葉スキー場 |
| 岐阜県 | 飛騨ほおのき平スキー場 |
| 岐阜県 | ひるがの高原スキー場 |
| 岐阜県 | ホワイトピアたかす |
| 岐阜県 | 鷲ヶ岳スキー場 |
| 滋賀県 | Ohana Resort |
| 兵庫県 | アップかんなべスキー場 |
| 兵庫県 | おじろスキー場 |
| 兵庫県 | 神鍋高原　万場スキー場 |
| 兵庫県 | ちくさ高原スキー場 |
| 兵庫県 | ばんしゅう戸倉スキー場 |
| 兵庫県 | 氷ノ山国際スキー場 |
| 兵庫県 | 峰山高原リゾート　ホワイトピーク |
| 兵庫県 | 若杉高原おおやスキー場 |
| 鳥取県 | 大山ますみず高原スノーパーク |
| 島根県 | 琴引フォレストパーク |
| 岡山県 | 恩原高原スキー場 |
| 広島県 | 恐羅漢スノーパーク |
| 広島県 | 芸北高原　大佐スキー場 |
| 広島県 | ひろしま県民の森 |
| 広島県 | めがひらスキー場 |
| 広島県 | ユートピアサイオト |
| 広島県 | りんご今日話国スキー場 |
| 愛媛県 | 石鎚スキー場 |
| 愛媛県 | 久万スキーランド |
| 愛媛県 | ソルファ・オダスキーゲレンデ |
| 大分県 | くじゅうスキー場 |

## リクルートグループについて

1960年の創業以来、リクルートグループは、就職・結婚・進学・住宅・自動車・旅行・飲食・美容などの領域において、一人ひとりのライフスタイルに応じたより最適な選択肢を提供してきました。現在、HRテクノロジー、人材派遣、マーケティング・マッチング・テクノロジーの3事業を軸に、60を超える国・地域で事業を展開しています。リクルートグループは、新しい価値の創造を通じ、社会からの期待に応え、一人ひとりが輝く豊かな世界の実現に向けて、より多くの『まだ、ここにない、出会い。』を提供していきます。

詳しくはこちらをご覧ください。
リクルートグループ：https://recruit-holdings.com/ja/　リクルート：https://www.recruit.co.jp/